

平成25年度 事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日)

当協会（TEPIA）は、近年、資産運用環境の悪化による運用収入の大幅な減少や景気低迷による施設賃貸事業収入の減少により、厳しい財政運営が継続し、経費の大幅縮減を実施してきた。平成25年度は、基本財産等の柔軟な運用や円安等による資産運用収入増加により財源を確保し、TEPIA館内天井等の耐震補強工事の実施等によるTEPIA館来館者の安全確保や実施事業の情報発信機能の向上等必要性の高い事業等に思い切った予算措置を実施した。

特に、事業面では、先端技術動向等を踏まえた3Dプリンターの展示・デモンストレーション、展示場へのQRコード導入による展示音声ガイドの整備等、より積極的な「先端技術館@tepia」の運営に取り組んだ。また、26年度に展示事業を一新するため、展示コンセプト・展示内容の検討、具体的な造作等の展示準備を行った。

また、情報機器の技術動向や社会動向を踏まえ、一般社会に急速に普及しつつあるスマートフォン及びタブレット端末の高齢者層への利用拡大を図る情報リテラシー向上事業を開始した。

なお、2020年東京オリンピック開催後に向けた神宮外苑地区整備計画の検討状況や東京都、関係地権者等の動向を踏まえつつ、TEPIA事業の在り方等についても引き続き検討を行った。

その他の事業も含め、平成25年度に実施した主な事業内容は以下のとおりである。

1. 展示事業

1階の「先端技術館@tepia」において、高度な社会発展に資する最新技術や先端的技術製品を来館者に分かりやすく紹介するための展示事業を実施している。平成25年度は、先端的技術動向を踏まえた展示内容の一部の入れ替えと、平成26年度に向けた展示場内容一新のための準備

を実施した。

(1) 平成25年度展示運営

今後のわが国の成長産業分野である環境・エネルギーや医療・福祉に重点を置き、昨年度に引き続き展示テーマを「SMART TECHNOLOGY・・・新しい社会・都市・暮らしをつくる日本の先端技術」として、先端技術・製品112点を展示した。

平成25年度の展示開催期間は、館内の天井等の耐震補強工事実施のため、平成25年4月10日から平成25年12月27日までの224日間であった。また、総入場者数は30,507人（1日平均入場者数136人）であった。このうち、外国人入場者数は、1,101人であった。

① メイン展示等

メイン展示は、先端技術分野を次の5つの領域に分け、それぞれに掲げる先端技術製品を展示した。

- ・暮らしとコミュニケーション
- ・健康と医療
- ・都市とモビリティ
- ・環境とエネルギー・資源
- ・小さな世界と高機能素材

② テーマ展示（特別展）

スマートコミュニティを取り上げ、その全体像や具体的なアプリケーションが来館者にイメージできるようにするため、スマートハウス、BEMS、HEMS、次世代自動車等をパネル、映像等で分かりやすく展示した。EV・PHV向け充電スタンドなどの実物展示も実施した。

③ エピローグ展示

メイン展示の5つの領域の技術に関連するわが国の諸課題を来館者に分かりやすく伝えることを目的として、「教えて！てぴあん」と題するイラスト方式のディスプレイを新たに設置した。

また、環境・エネルギーに対する来館者の正確な理解を促進するため、世界各国のエネルギー情勢について客観的なデータの紹介も実施した。

④ トピックス展示

キッズデザイン賞の受賞作品から12作品を2回（前期4月10日～10月14日、後期10月16日～12月27日）に分けて展示し、紹介した。

⑤ エントランス展示

1階エントランスにおいて、個人を主体とするモノづくりへの新産業革命をもたらす起爆剤として米国や日本などで話題となった3Dプリンターを平成25年8月から展示し、3D造形物の試作デモンストラーションを実施した。次世代の担い手である小中高生や一般の来館者が間近で話題の最先端技術に触れる機会を提供し、来館者から好評を得た。

(2) 併催イベント

「先端技術館@tepia」への小学生、中学生の来館の促進イベントを次の通り実施した。

① ゴールデンウィークと6月のイベント

親子工作教室（4回）（参加者数 386名）

② 夏休みイベント

サイエンスショー@TEPIA 夏（参加者数 732名）

TEPIAロボットWEEK（参加者数 1, 224名）

夏休み！実験教室（3日間）（参加者数 271名）

③ 秋イベント

テクノワークショップ（4回）（参加者数 299名）

サイエンスショー@TEPIA 秋（参加者数 621名）

(3) 情報提供

多様な来館者のニーズに応えるため、スマートフォンの普及に対応して、展示場内にQRコードを読み取って音声で説明するシステムの導入を行った。

中学・高校の生徒の団体来館を促すために開設している「中学及び高校教科書に関連する展示物を教師に紹介するホームページ」を改訂した。

また、インターネット利用者を「先端技術館@tepiaホームページ」に誘導するため、ツイッターへの毎日発信を実施した。

(4) 平成26年度の展示準備

平成25年7月に企画競争を実施して平成26年度展示の委託先を選定し、平成26年3月に平成26年度展示のための改装を実施した。

平成26年度の展示は、「次の世代を担う中高校生等の若い世代に対し、将来に向けた社会的課題と併せて、先端技術のすばらしさ、おもしろさ、ダイナミズムを体感する機会を提供し、自らが主体的に課題解決、技術開発にチャレンジしていくきっかけづくりを目指す」をコンセプトとして、展示準備を実施した。

平成26年度の展示基本構成は、以下の4ゾーンに沿って体験・見学する構成とした。

○ テクノロジーパスウェイ：

「先端技術の過去から未来へ」との切り口で、先端技術が社会変革に重要な役割を果たすものであることを紹介。

○ テクノロジーショーケース：

身近な切り口で話題の最先端技術を分類し、展示紹介。

○ テクノロジースタジオ：

来館者が体験し、身近に感じる演出手法で先端技術を紹介

○ テクノロジー・ラボ：

展示先端技術関連の実験体験

(5) 展示審議委員会

展示事業に対する助言を得るため、平成26年2月に展示審議委員会を開催した。

2. ハイテク情報サービス事業

機械情報産業を中心とした先端技術関連の映像コンテンツの館内ビデオライブラリーでの上映やインターネット配信を実施し、先端的な産業技術や映像技術に対する理解を促進した。

(1) ビデオライブラリーの運営

先端技術の普及と理解促進を図るため、映像コンテンツの収集と運用管理を継続して実施した。

- ① 25年度は、新たに、ボスポラス海峡横断鉄道トンネル建設、情報セキュリティ対策、国産ジェット機(MR J)、宇宙開発等の先端技術関連映像など96作品を収集するとともに、約2,200作品を館内視聴機器で公開、うち、約1,000作品をインターネットによる配信サービスで提供した。

利用者数については、館内ビデオライブラリーの利用が6,281名(内、予約団体利用者1,799名)であった。また、インターネット配信作品へのアクセス数は延べ9,496回であった。

- ② シアターでは技術の話題性を考慮して、宇宙探査、ロボット、生命科学等の作品を中心に上映を行った。
- ③ シアター内のプロジェクタ及び音響機器を更新し、より鮮明な映像で作品を上映できる環境を整えた。

(2) 映像及びデジタル・コンテンツの制作

展示場の紹介映像や記録映像等の自主制作を行い、TEPIA WebとYouTubeを活用して、TEPIA事業のプロモーション活動を支援した。

(3) 講演会の開催

先端技術分野等の最新動向や社会課題等についての講演会を第一線の専門家を講師として招いて実施した。平成25年度は、以下のとおり、3回開催し、企業及び団体の役職員並びに関係有識者など延べ254名が参加した。

① 平成25年6月3日開催

講師：奈良先端科学技術大学院大学

教授 山口 英 氏

講演テーマ：サイバーセキュリティを巡る最新動向

② 平成25年9月24日開催

講師：東京大学大学院

教授 橋本 和仁 氏（総合科学技術会議議員）

講演テーマ：基礎研究成果をいかにイノベーションへと導くか：

光触媒を事例として

③ 平成26年3月6日開催

講師：スパイバー株式会社

代表取締役社長 関山 和秀 氏

講演テーマ：“QMONOS”実用化への挑戦

また、本年度からTEPIA Webを介して広く一般からの参加申込みの受付を行うとともに、講演記録のインターネット配信を行い、講演内容の普及啓発活動を行った。

3. 情報リテラシー事業

近年、情報端末機器の中心は、パソコン・携帯電話からスマートフォン・タブレット端末へと急速に移行しつつあり、高齢者にとっても、これらの利用が生活の質の維持・向上にとって重要なものとなってきている。このため、平成25年度は新たに高齢者層を対象にしたスマートフォン・タブレット端末の初心者講座を開始した。なお、長期にわたり当協会で開催し

てきたパソコン講座は平成25年11月末で終了した。

(1) 高齢者層向けスマートフォン・タブレット講座

① スマートフォン講座（5月開講、6月コース追加）

- ・ iPhone 講座（1コース：定員7名 4回） 月5コース実施
 - ・ Android 講座（1コース：定員7名 4回） 月3コース実施
- （受講者数 532名）

② タブレット講座（6月開講）

- ・ iPad mini 講座（1コース：定員12名 4回） 月2コース実施
- （受講者数 211名）

(2) 聴覚障害者向けパソコン講座

① 初心者向け体験講座（1回：定員12名1日） 3回実施

（受講者数 36名）

② 実用講座（1回：定員6名7日間） 3回実施

- ・ 生活に役立つパソコンセミナー 2回
- ・ 仕事に役立つパソコンセミナー 1回

（受講者数 18名）

(3) 視覚障害者向けパソコン講座

① 指導者入門・養成講座（1回：定員10名2日間） 2回実施

※視覚障害者にパソコン操作を指導する人材の育成講座

- ・ 指導者入門講座 1回
- ・ Word・Excel 指導者養成講座 1回

（受講者数 22名）

② 遠隔講師養成講座（1回：定員12名6日間） 1回実施

※視覚障害者に遠隔でパソコン操作を指導する人材の育成講座

1回実施（東京、札幌市、苫小牧市等5地域をネットワークで結んで実施）

（受講者数 18名）

4. 調査・企画・広報事業

(1) 調査研究事業

わが国の今後の経済成長や国際競争力強化のためには、中小・中堅企業が持つ先端的な技術の発展は極めて重要である。このため、特に注目される優れた先端的技術を展示事業で紹介すること等を目的として、注目度の高い中小・中堅企業の最新技術動向等の調査等を実施した。

(2) 知的財産研究振興事業

知的財産研究の推進を図るため、日本知財学会の協力を得て以下の事業を実施した。

- ① 知的財産に関する優れた学術研究計画2件を助成対象として選定し、平成25年11月30日に表彰を行い、平成25年12月に助成金を交付した。
- ② 平成24年度助成の対象者2名による研究成果を、平成26年3月にTEPIA知的財産学術研究助成成果報告書として集成した。

(3) 広報事業

TEPIAホームページを改修し、YouTubeを活用した動画による事業紹介を導入するなどホームページ広報の充実を図った。また、各々の事業ごとに、事業活動PR等のためのホームページ情報更新を積極的に実施したほか、近隣自治体ホームページへの事業PR情報掲載も実施した。

5. TEPIA館施設の賃貸

TEPIA館施設（4階TEPIAホール、4階会議室、3階エキシビジョンホール、地下1階会議室及び駐車場等）の賃貸事業については、景気の回復傾向もあり、前年度を上回る実績を確保した。

また、会議室検索サイトの有効活用やホームページに動画の利用案内を掲載するなど積極的なPRも実施した。引き続き次年度においても、今後

の収入増収を図るため、顧客ニーズに即応した柔軟な営業戦略のもとで稼働率向上を図る。